

「外来生物に興味を持とう」

井戸堂小学校 6年 光延 陽生

僕は、生物が大好きで虫捕りをよくします。夏休みもニイニイゼミやシオカラトンボ、クマゼミ、ショウリョウバッタ、ニホンカナヘビなどを捕まえて、観察してから逃がしました。そんなぼくが、今日みなさんにお話ししたいのは、外来生物の事です。

僕が外来生物に興味を持ったきっかけは、このクビアカツヤカミキリです。4年生の時、クビアカツヤカミキリが家の裏のすももの木にいたのがきっかけで、家の周りには、他にどんな外来生物がいるのか調べたくなり、「家の周りの外来生物」という自由研究をしました。その研究から、家の周りには、ミシシippアカミミガメやクビアカツヤカミキリ、アメリカザリガニなどの外来生物がいることがわかりました。

そして、今年、6年生の夏休みも、クビアカツヤカミキリが家の裏のすももの木に来ました。今年は、毎日何匹も捕殺しました。それくらい数が多く、フラスも去年より多かったです。

フラスというのはクビアカツヤカミキリのフンと木くずが合わさったものです。フラスがたくさんあるということは、それだけ虫が存在しているということになります。

奈良県では令和元年に初めてクビアカツヤカミキリが見つかりました。そこから数年で、どのくらい増えたんだろうと思います。

家のすももの木をよく見てみると、フラスがたくさんあり、木に穴もたくさん空いていました。去年も今年も成虫をたくさん捕殺したけれど、やっぱり木の中がすかすかになってしまって、ついに折れてしまいました。家の近くの公園の桜の木も同じように折れそうになって近々切り倒すらしいです。初めて、クビアカツヤカミキリが木に来てから、約2年で木がすかすかになってしまうのかと僕は驚きました。すかすかになった木は、その部分から折れてしまいます。僕が通っている学校や近くの公園にも、通学路にも、たくさんの桜の木があります。その木の下にいる時に、もし折れてしまったら、とても危険だと思います。

クビアカツヤカミキリなどの外来生物は、年々増え続けています。アメリカザリガニは特定外来生物に指定されました。つまり、もし捕まえたとしても、逃がしてはいけなくなったということです。だから、ザリガニ釣りもできません。クビアカツヤカミキリも、アメリカザリガニも、駆除しなければならない生物なのです。

でも、僕は、本当は、駆除なんてしたくありません。なぜなら、悪いのは人間だからです。もともと外来生物は、ペットや食用として持ち込まれたり、荷物についてきたり、人間の都合で日本で暮らさなければならなくなった生物がほとんどです。それが今では、厄介者として扱われているのはかわいそうだと思います。

テレビで見ましたが、捕まえて美味しく料理して減らしていこうと努力している人もいます。また、駆除のために懸賞金をかけている市町村もあります。僕は、その減らし方や取り組みについては賛成です。

最近、僕は、自分が捕まえた生き物が、外来生物かどうかを確認するようになりました。外来生物が増えると、日本に元々いる「在来種」の数が減ったり、農作物や木が食べられてしまったりするからです。

外来生物の問題は、実は、だれにとっても身近なもので、僕たちにできることは、「入れない」「すてない」「広げない」の3つだと思っています。生物を飼う時は、最後まで責任を持って飼わなければいけないし、今起きている外来生物の問題について、みんなで協力して、何か行動することが大切だと思います。そのために、もっともっと大勢の人が外来生物に興味を持ってほしいです!!

今日の僕の話聞いて、みんなが少しでも外来生物に興味を持ってくれたらうれしいです。